

RS ウイルスに対する母子免疫ワクチン接種の開始について

このワクチンは、妊婦への能動免疫*1 による新生児および乳児における RS ウイルスを原因とする下気道疾患の予防を効能・効果とするワクチンです。妊婦に接種することにより、母体の RS ウイルスに対する中和抗体価を高め、その抗体が胎児に移行し、出生時から乳児における RS ウイルスを原因とする下気道疾患を予防することを期待します。

対象は、妊娠 24～36 週の妊婦で、1 回 0.5cc を筋肉内に接種します。

RS ウイルスは、乳児及び高齢者の呼吸器感染症の主な原因で、年長児や非高齢者成人においては感冒様症状のみで自然軽快しますが、生後数ヶ月までの乳児に感染した場合には気管支炎や肺炎などの重症感染症を引き起こすことがあります。日本では、毎年約 12～14 万人の 2 歳未満の乳幼児が RS ウイルス感染症と診断され、その約 4 分の 1 が入院を必要とすると推定されています。

現在、乳児での投与対象者は、早産児や先天性心疾患・免疫不全症等の RS ウイルス感染症に罹患するリスクが高い新生児及び乳幼児に限定されていますが、RS ウイルス感染による 2 歳未満の乳幼児の入院は、基礎疾患を持たない場合も多く、生後 1～2 ヶ月時点でピークとなるため、出生前および生後早期から予防策が必要とされています。

ワクチン接種の効果については、生後 6 ヶ月までの有効性は検証されていますが、生後 6 ヶ月以降の有効性は確立していません。

またワクチン接種後、14 日以内に出生した乳児における有効性は確立していません。

有用なワクチンですので、早産のリスクの高い妊婦（切迫早産・多胎妊娠・前置胎盤・早産既往のある妊婦など）以外の一般妊婦にも接種をお勧めいたします。

当院かかりつけのない妊婦の方でも接種希望のある方は、当院に御連絡いただければ接種可能です。

妊娠 22 週以降を過ぎましたら早めに接種の希望をお申し付けください。

*1；能動免疫とは、感染力をもたないウイルスの断片を接種することによって体の免疫システムが反応し、ワクチンに含まれているウイルスを識別して攻撃する物質〔抗体〕を作り出し、病気の予防や軽減を図る免疫の機序です。